

関係団体ヒアリング結果について

令和7年3月17日（月）
熊本県観光文化部スポーツ交流企画課

関係団体ヒアリングの概要

ヒアリングの目的

各施設を利用するプロスポーツチームや競技団体等から、各施設の利用実態や課題、今後の施設整備に最も求めるもの等を直接聞き取り、今後の県営スポーツ施設整備の方向性の整理の参考にする。

主なヒアリング事項

- ① 対象施設の利用実態(利用頻度や利用するタイミング)
- ② 対象施設を利用する上での課題、改善の必要性
- ③ 対象施設の代替施設
- ④ 今後の対象施設整備において最も求めるもの

ヒアリング実施時期

令和6年(2024年)12月23日(月)～令和7年(2025年)3月14日(金)

関係団体ヒアリングの概要

ヒアリングを行った関係団体

藤崎台県営野球場
(リブワーク藤崎台球場)

指定管理者(熊本県スポーツ振興事業団)、火の国サラマンダーズ、新球場建設連絡協議会、熊本県野球連盟、熊本県軟式野球連盟、熊本県高等学校野球連盟、熊本ゴールデンラークス、九州工科自動車専門学校野球部

熊本武道館

指定管理者(熊本県武道振興会)、熊本県柔道協会、熊本県剣道連盟、熊本県空手道連盟、熊本県少林寺拳法連盟、熊本県銃剣道連盟、熊本県日本拳法連盟、熊本県なぎなた連盟、熊本県テコンドー協会、熊本県武術太極拳連盟、熊本県合気道連盟

熊本県立総合体育館

指定管理者(熊本県スポーツ振興事業団)、熊本ヴォルターズ、フォレストリーヴズ熊本、熊本ビューストピンディーズ、熊本県体操協会、熊本県卓球協会、熊本県バドミントン協会、熊本県バレーボール協会、熊本県バスケットボール協会、熊本県ハンドボール協会、熊本県レスリング協会、熊本県ボクシング連盟

熊本県民総合運動公園陸上競技場
(えがお健康スタジアム)

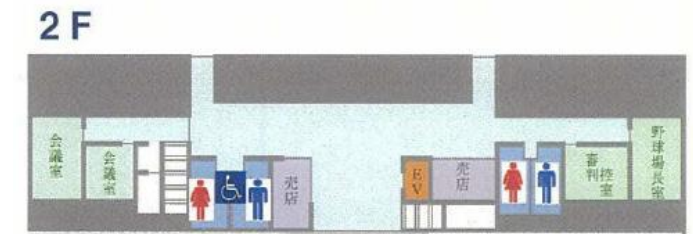
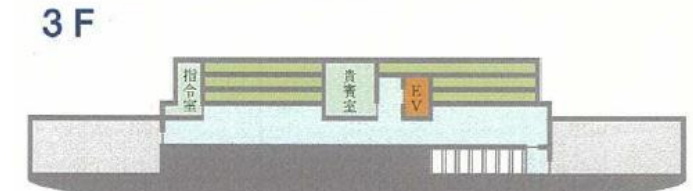
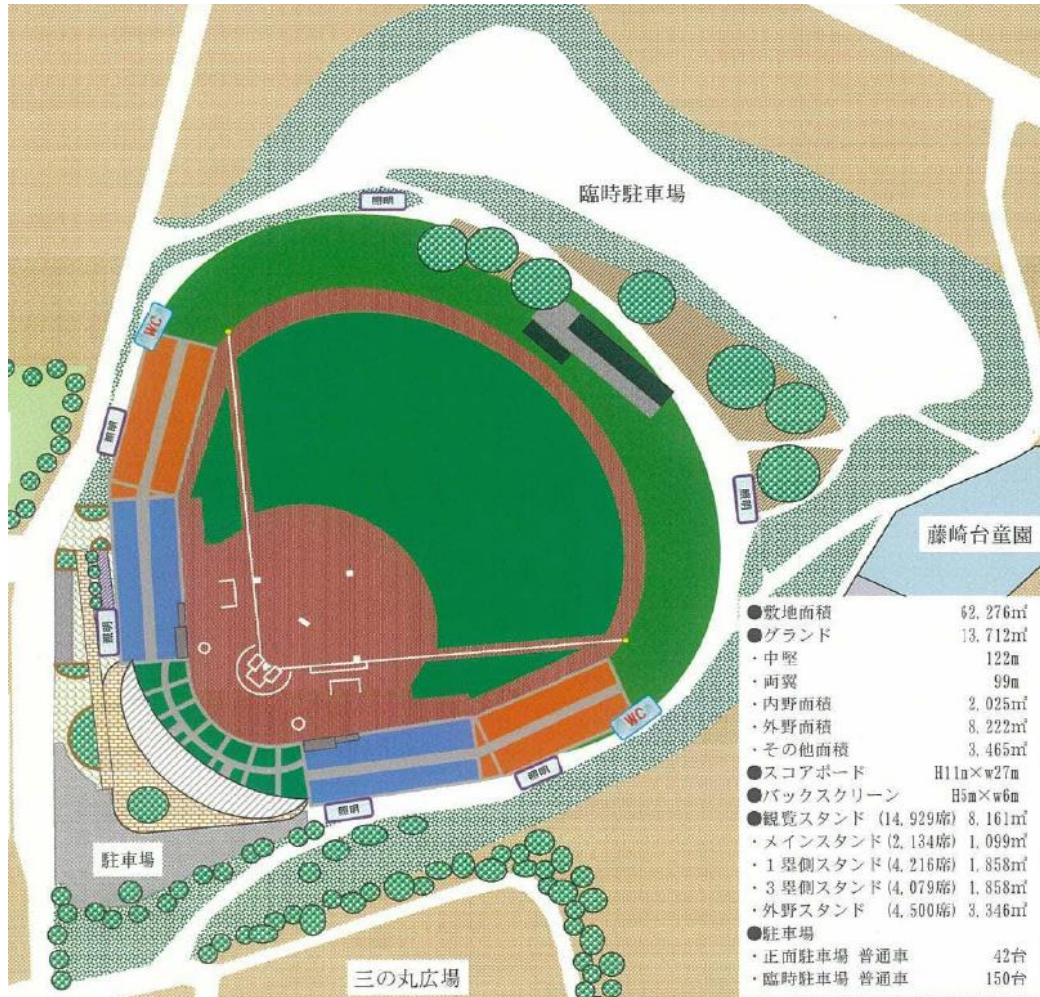
指定管理者(熊本県スポーツ振興事業団)、ロアツソ熊本、熊本陸上競技協会、熊本県サッカー協会、熊本県ラグビーフットボール協会

計 36団体



藤崎台県営野球場 (リブワーク藤崎台球場)

<藤崎台県営野球場（リブワーク藤崎台球場）> 施設レイアウト



<藤崎台県営野球場（リブワーク藤崎台球場）> 利用実態

※ 令和6年の利用実績。なお、令和6年1～2月は、フェンス工事のためグラウンドの利用停止

日本プロ野球機構(NPB)

ソフトバンクホークスの試合が1試合開催(R6.4.9)。
準備(マウンドの転圧等)のため、試合日の5日前から日程を確保。

火の国サラマンダーズ

ホーム球場。リーグ戦(3月中旬～9月)の試合等で、土日19日、平日14日利用。
これまで練習場としていた合志市のグラウンドがなくなったため、練習での利用も増えている。

高校野球

九州大会や全国大会に繋がる春季大会(3月下旬～4月上旬)、夏季大会(7月上旬～7月下旬)、秋季大会(9月中旬～10月上旬)で毎年利用。
また、歴史あるRKK旗(4月下旬～5月上旬)、NHK旗(5月中旬～5月下旬)でも毎年利用。
(令和6年は、年間で平日33日、土日25日利用)

社会人等

熊本ゴールデンラークス(6日)、九州工科自動車専門学校野球部(23日)が練習のために平日利用。

その他

この他、数年に1度、九州各県持ち回りで開催される都市対抗野球九州地区予選や高校野球九州大会等が本県で開催される際に利用。

課題・改善の必要性

<県内の野球環境について>

- 硬式野球(試合・練習ともに)ができる野球場の数が非常に少ないため、藤崎台県営野球場の空きがなく、利用ができないことも多い。
- 硬式野球の公式戦ができる野球場が他県に比べても圧倒的に不足している。

※ 九州各県の硬式野球の公式戦が可能な球場数(九州各県高野連への聞取り)

	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
球場数	14	7	6	3	9	15	8	10

- 一方で、プロチーム(火の国サラマンダーズ)ができて、藤崎台県営野球場の需要は高まっている。
- 硬式野球の利用でほとんど埋まる。子供たちの軟式野球大会等での利用ができなくなっている。
- 熊本県での大会開催やキャンプ等の相談をもらうこともあるが、球場数が少ないため、より施設・設備が整っている他県で行われている。

課題・改善の必要性

<球場設備等について>

- 駐車場が不足。周辺への無断駐車等のトラブルも多く、大会主催者等は終日その対応に追われることもある。警備員を複数配置して対応している。熊本城内の渋滞の原因にもなっていることがある。
- 特にバックヤードは、ユニバーサルデザインに対応していない(階段が多い、廊下が狭い等)。
- 諸室が少なく、大会開催時等は運営スペースが不足する。Wi-Fi整備も必要。
- ロッカールームが狭く、シャワーも少ないため、利用していない場合が多い。ベンチからロッカールームへの地下通路の水漏れがひどい。
- サブグラウンドや屋内練習場がなく、試合前の準備ができる場所がない。
- スタンドに屋根がないため、夏場に熱中症になる方がいる。
- 球場内に大型トラックが入られないため、音楽ライブ等のイベント開催ができない(打診があっても最終的に断念しているケースが既に発生している)。

< 藤崎台県営野球場（リブワーク藤崎台球場） > 課題・改善の必要性

< 写真 >



<藤崎台県営野球場（リブワーク藤崎台球場）>

代替施設

- 「球場の広さ」、「観客席」、「安全面」等を勘案すると、県内で藤崎台県営野球場のほかに硬式野球の公式戦で利用できる球場は、県営八代運動公園野球場、山鹿市民球場のみ。
- 県内各地域での高校野球の試合(地区大会等)では、各地域にある球場(※)や、学校のグラウンドを使用しているが、県大会となると、打球が車や人に当たる危険性があること等から、それらの球場での開催はできない。
 ※ 川上哲治球場(人吉市)、広瀬公園野球場(天草市)、松島野球場(上天草市)等
- 硬式野球の練習場所確保が難しいため、市町村と個別に調整し、許可を得た上で、軟式用球場で硬式野球の練習(守備のみ)をしているケースもある。

<参考1:公認野球規則(日本野球規則委員会) 施設基準 抜粋>

本塁よりフェアグラウンドにあるフェンス、スタンドまたはプレイの妨げになる施設までの距離は250フィート(76.199メートル)以上を必要とするが、両翼は320フィート(97.534メートル)以上、中堅は400フィート(121.918メートル)以上あることが優先して望まれる。

<参考2:屋外スポーツ施設の建設指針(「公益財団法人日本スポーツ施設協会屋外施設部会編集」(令和5年改訂版)) 抜粋>

野球場の大きさ

		HB~バックネット	HB~レフト・ライト	HB~センター	面積
硬式 野球	プロ	18.29m以上	99.06m以上	121.92m以上	≒14,000㎡~
	公認	同上	97.53m以上	同上	≒13,500㎡~
軟式 野球	社会人	同上	91.44m以上	115.82m以上	≒10,500㎡~
	学童	12.00m以上	70.00m	85.00m	≒6,000㎡~

バックネットの標準寸法

種類	寸法	高さ	長さ
硬式球場		10~15m	25~30m
軟式球場		8~10m	20~30m
少年・学童球場		6~8m	20m程度

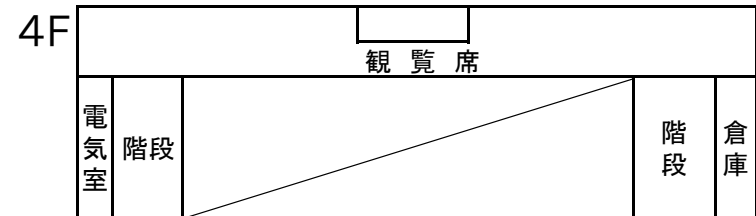
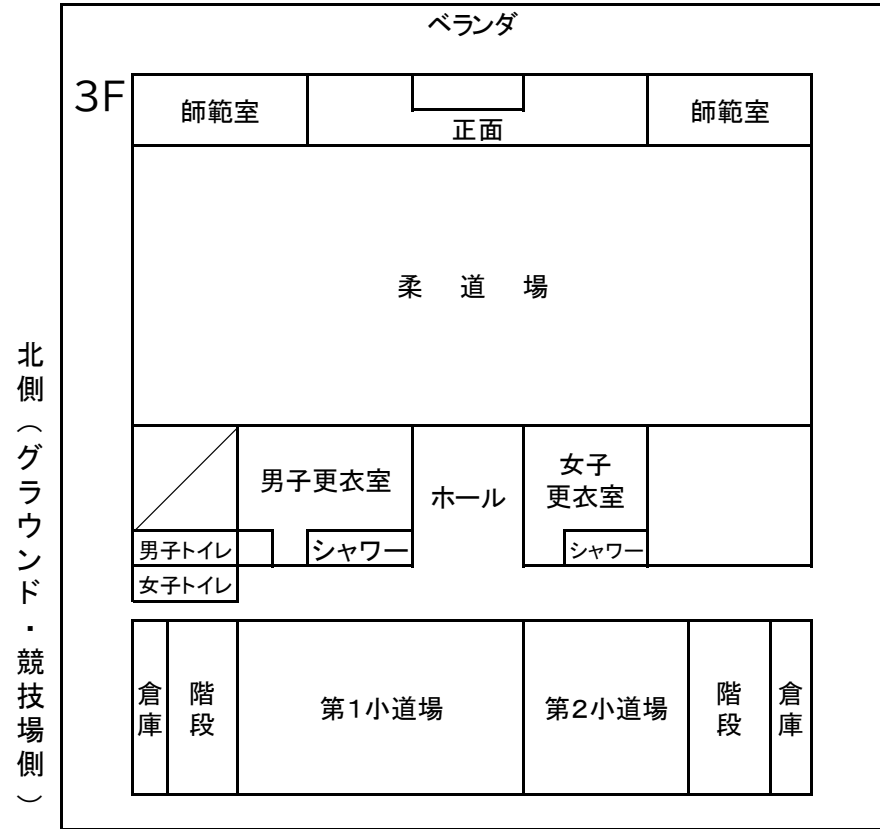
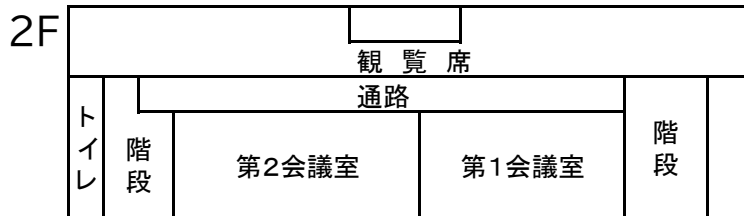
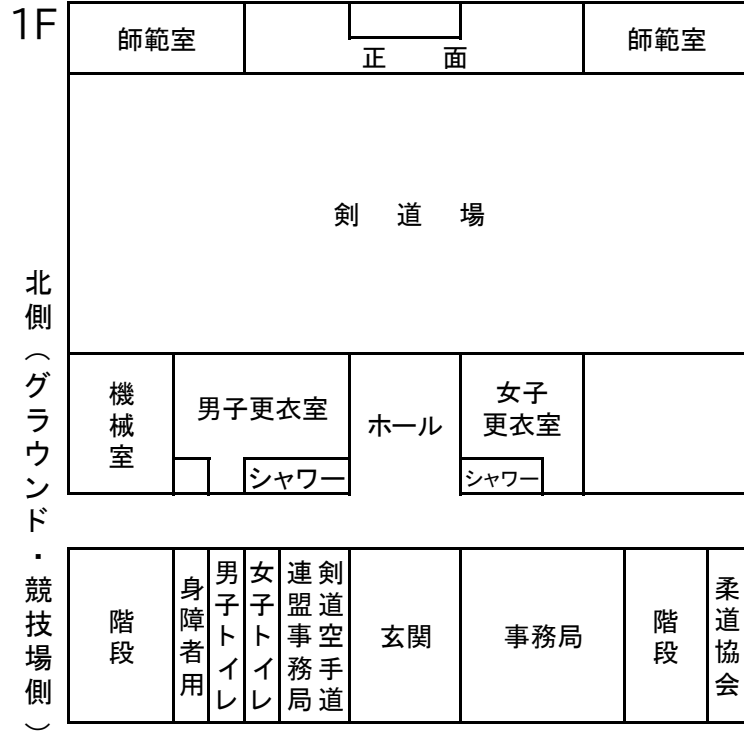
<藤崎台県営野球場（リブワーク藤崎台球場）> 今後の整備に最も求めるもの

- 藤崎台県営野球場を残した上で、新球場建設。
⇒球場の不足が最大の課題であり、単に建替え・改修であれば、その課題解決に繋がらない。
新球場整備によって、キャンプ等にも繋がるのではないか。
- 藤崎台県営野球場の内野部分の人工芝化。
⇒野球場が不足する中で効率的な球場利用をするために、内野の土部分を人工芝にすることで、雨が降っても、止み次第すぐに利用ができるようになる(これにより予備日の日数を削減でき、より多くの方に利用してもらえるようになる。)



熊本武道館

＜熊本武道館＞ 施設レイアウト



<熊本武道館> 利用実態

全般

競技面数が少ない(3面)ため、柔道や剣道等の参加者の多い競技での大会利用は難しい。一方で、参加者が限られる昇段審査や講習会、国民スポーツ大会選考会等では利用(主に土日)。

平日の「朝」や「夕方～夜」の時間帯は、地域住民の個人利用や子供向けの稽古などで利用が多い。平日昼間は、県警や自衛隊の稽古で利用される場合もある。

※熊本武道館は、熊本県の武道の象徴的施設。各競技のルール変更等により、現在は大会開催に必要な規模を満たせなくなっているが、昇段審査等の重要な行事は熊本武道館で行いたいとの意見多数有り。

剣道場(1階)

剣道、なぎなた、居合道、少林寺拳法等で利用。
土曜日は剣道連盟が貸し切って使う(団体利用)ことも多い。

柔道場(3階)

柔道、空手道、合気道、少林寺拳法、テコンドー等で利用。
平日夜は利用者が多く、同じ時間に、空手道、柔道、少林寺拳法が1面ずつ利用している場合等もある。

小道場(3階)

剣道(板張り)と柔道(畳張り)でそれぞれ小道場があり、稽古用に様々な武道で利用されている。

会議室

行事開催時の諸室として利用したり、各競技団体の会議、県庁の会議等で利用されている。

課題・改善の必要性

- 空調が必要。昨今の夏場の暑さはひどく、熱中症には細心の注意を払って対応しているが、搬送される利用者がある。空調がないことで武道から離れていく人もいる。主催者として安全面を確保する観点から、昇段審査等も、空調のある体育館等で開催しなければならなくなってきている。公共施設の利用者が安全に利用できるように行政は環境を整えるべきではないか。
- 駐車場の数が不足している(現在約70台)。特に、剣道場、柔道場のそれぞれの行事が重複した場合は、全く足りなくなる。満車時は救急車の乗入れに支障が出る。道具の持ち運びがあるため車で来る方が多いことから、乗合せでの参加を呼び掛けているが、それでも不足している状況。
- ユニバーサルデザインに対応していない。エレベーターがないため、高齢の有段者や役員が熊本武道館での行事参加を断念する場合がある。熱中症やケガによる搬送時にも危険で不便。

課題・改善の必要性

- 更衣室、シャワーが古い。お湯の出るシャワーの数が少なく、更衣室にも空調がないため、あまり利用されていない。競技振興には快適さや清潔さなどのイメージは重要であり、早期の整備を希望。
- 備品の整備。競技によっては専用マットや専用備品が必要になるが、熊本武道館にはない備品もある。
- 武道の稽古等を目的とした外国人観光客が増えており、稽古や歴史・文化の観光のために滞在期間が長い。その受け皿として民間活力の活用により武道館と一体的な宿泊施設の整備ができないか。

課題・改善の必要性

< 写真 >



<熊本武道館> 代替施設

- 熊本武道館周辺での日常利用の代替施設は、熊本市総合体育館・青年会館の武道場、公德会武道場(びぐれす熊日会館)。
- ただし、仕事や家事をやりながら隙間時間で稽古をする利用者目線では、立地や競技スペースの広さ、駐車場の数から、熊本武道館が最も使いやすい。
- 大会では、「競技スペースが6～8面確保できること」、「空調設備と観客席があること」、「駐車場が広いこと」を満たす会場が必要。そのため、それらを満たす山鹿カルチャースポーツセンター総合体育館、菊池市総合体育館、合志市総合体育館、菊陽町総合体育館、益城町総合体育館などを利用。
- 柔道や空手道、日本拳法、テコンドーなどの試合ではマットが必要となるが、備品として所持していない体育館もあり、マット確保のための調整に苦慮する場合がある。

今後の整備に最も求めるもの

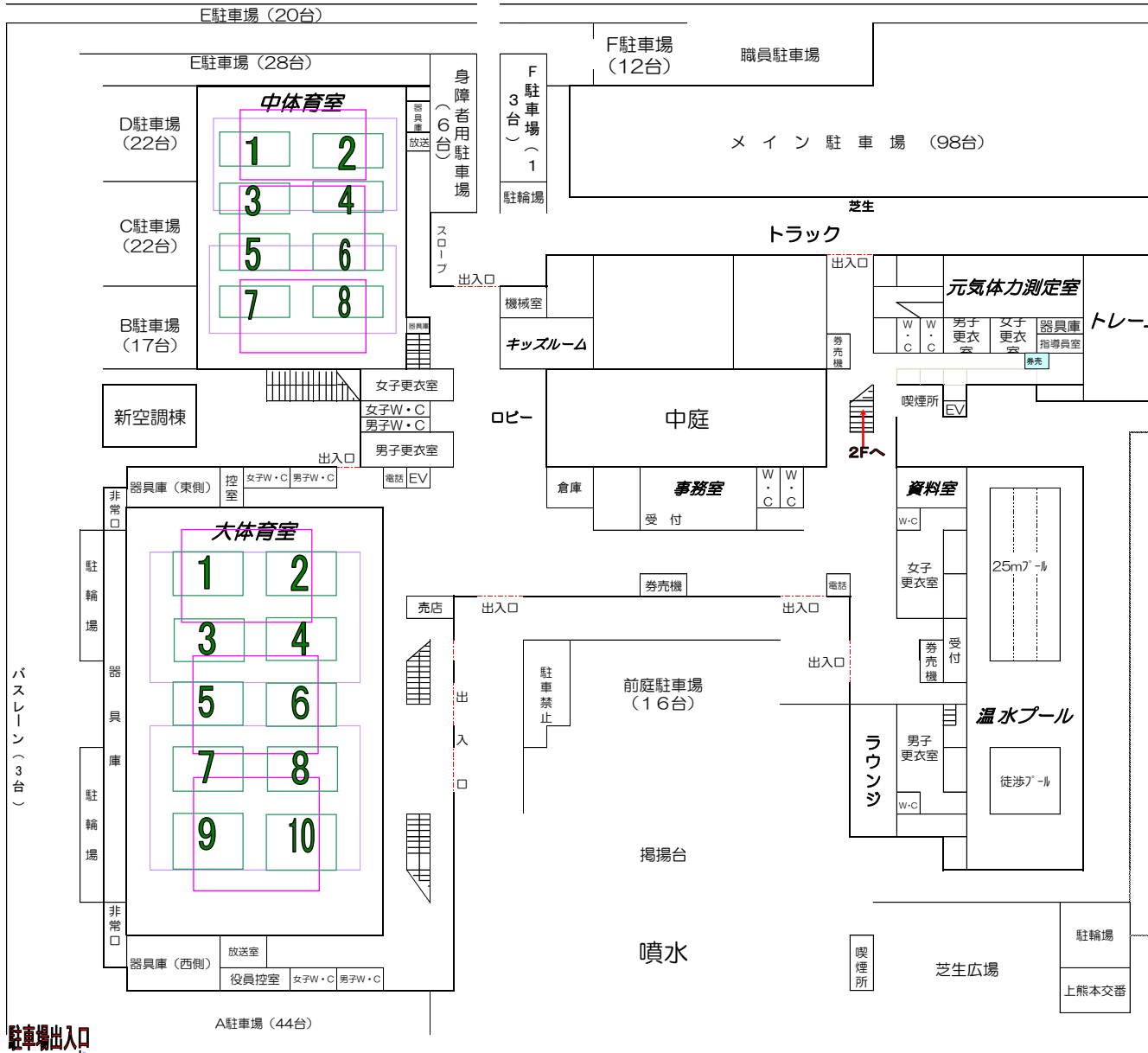
- 空調設備の設置。
⇒熊本武道館が今後も安全に利用してもらうためには、空調は必要。空調設備が設置されることで、武道振興の取組みをより一層推進できる。利用料金が上がっても利用する。
- 駐車場の環境改善。
⇒乗合せのお願いや、県庁駐車場を借りるなどしてきたが、熊本武道館で行事を行う際に必要な台数分の駐車場確保を求める。
- 更衣室、シャワールームの改善。
⇒お湯の出るシャワーの数が少なく、男性シャワー室は間仕切りがないため、あまり利用されていない。女性更衣室も古く、空調もないため、行事の際には、会議室を借りて女性更衣室にしている。

The image shows the exterior of the Kumamoto Prefectural Comprehensive Sports Center. The building is a large, modern structure with a white facade and a prominent, angular, cantilevered section. In the foreground, there is a stone wall with a reddish-brown sign that reads "熊本県立総合体育館" (Kumamoto Prefectural Comprehensive Sports Center). The sky is blue with scattered white clouds, and there are some bare trees and green shrubs around the building.

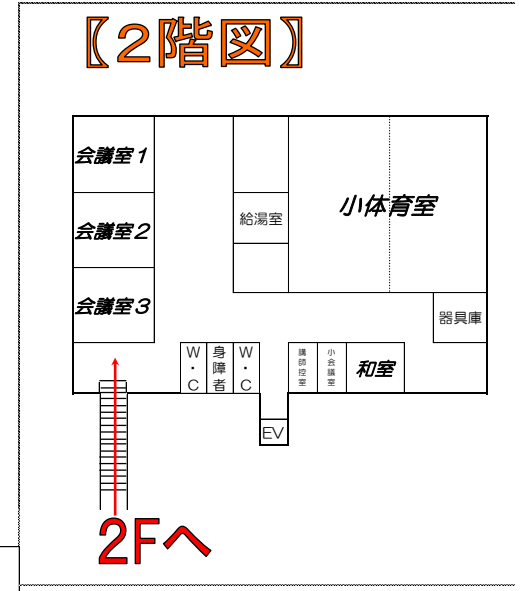
熊本県立総合体育館

<熊本県立総合体育館> 施設レイアウト

【1階図】



【2階図】



駐車場出入口

利用実態

全般

熊本ヴォルターズ(令和6年は年間で平日13日、土日23日利用)、国際バドミントン大会(令和6年11月5日～19日の15日間利用)が優先的に利用。その上で、空いている日程で、フォレストリーグ熊本や熊本ビューストピンディーズの試合、屋内競技の全国大会や九州大会、県大会などで利用。

人が集まりやすい立地であり設備面も充実していることから、利用希望者が多く、県大会決勝や九州大会でも日程重複のため利用できないことが多い。

安全面・導線の確保等のため、国際バドミントン大会では全館、熊本ヴォルターズの試合ではプール・トレーニング室以外の施設を全て借り上げている。

平日は、大体育室、中体育室ともに小分けで利用できるようにしており、多くの県民に利用されている。近隣学校が部活動や授業で利用する場合もある。

熊本市の指定緊急避難所・指定避難所。

大体育室

空調があり、観客席数も県内最大のため、様々な競技の大会等で多く利用。Bリーグが定めるB PREMIERの参入基準は満たしていない(観客席数、VIPルーム等が不足)。

中体育室

一定の広さがあり、観客席もあるため、一般利用から大会利用まで、様々な用途で利用。一方、空調がないため、安全面を考慮し、夏場の大会利用を控える主催者が多い(スポットクーラーが設置されたが、室内の温度を下げるほどの効果ではない)。

小体育室

空調があり、広さも程よいことから、卓球やボクシングなどで平日、土日ともに利用。ボクシングでは、大会でも利用(小体育室内にある倉庫にボクシングリングが保管されている)。

<熊本県立総合体育館>

利用実態

諸室

大会時に利用されていることが多い。大体育室、中体育室からの距離がある箇所に会議室が複数あるため、大会運営に当たっては非効率な導線となっている。

プール

近隣住民の方などが、常連で利用。特に夏場は、利用者が多い。
(利用者数 172人/日) ※令和6年4月～令和7年1月の平均

トレーニング室

室内が広く、機器の種類や数が豊富であり、利用者が多い。スポット利用が可能であり、大体育室等で大会がある際は、参加選手が利用することもある。
(利用者数 205人/日) ※令和6年4月～令和7年1月の平均

備品

様々な競技ができるよう、豊富な備品を整備しており、県立総合体育館以外で大会が開催される場合も、備品を貸与することがある。
ボクシングリングや体操競技用具など、県立総合体育館にしかない備品がある。

駐車場

交通アクセスが良い立地のため、熊本ヴォルターズや国際バドミントン大会の際は、公共交通機関を利用する人が多く、大きな問題なく運営されている。
一方、学生の県大会や九州大会等で利用する場合、車での参加者が多い。
(駐車可能台数 約290台)

<熊本県立総合体育館> 課題・改善の必要性

<利用環境について>

- 熊本ヴォルターズの試合や国際バドミントン大会の開催により、多くの人が県立総合体育館に集まっていることは良いことであるが、これまで開催できていた春高バレー決勝戦等の利用ができなくなっている。県立総合体育館の役割が変わってきている。
- 一方で、熊本ヴォルターズの試合前に、ウィンターカップ(全国高校バスケットボール選手権大会熊本県予選)の準決勝・決勝を行うなど、関係者の調整により県立総合体育館の利用機会確保のための工夫もなされている。

<設備について>

- 中体育室に空調がなく、夏場の大会利用が難しい。空調がつけば、中体育室でも県大会の開催も可能となり、利用者は増える。
- 特に学生の大会等で利用する際には、駐車場が不足する。熊本市外からの保護者含めた参加者が多く、乗合せでの参加を呼び掛けているが、駐車場の不足からトラブルが発生する。

課題・改善の必要性

- 防音効果が薄く、あらゆる競技において、近隣住民からの苦情を受けた経験がある。中体育室は空調がないため、夏場は窓を開けて利用するが、その際は騒音を意識した運営をしている。競技によっては、学生の声援を制限している場合もある。
- トイレが少なく、集客の多いイベント時には、特に女性トイレで行列ができる。和式トイレが残っているが、利用する人はほとんどいない。国際大会の際には、仮設トイレを設置している。

※大体育室内及びその周辺のトイレの数

男性		女性		多目的
小	洋式	洋式	和式	
26	14	21	3	2

- 諸室が大体育室から遠く、興行時の利用が難しい。大会時は安全な導線確保が必要であるため、広く施設を借り上げている(効率的な導線であれば、小体育室等は借り上げなくても興行が可能な場合もあるのではないか。)

<熊本県立総合体育館> 課題・改善の必要性

<競技別の課題>

バレーボール

- 中体育室を横1面のバレーコートにすることができない(ネットが立てられない仕様)。できるようになれば、中体育室での大会も可能になる。

ハンドボール

- 県立総合体育館は利用が可能であるが、松脂を使用するため、県内の体育館によっては利用ができないことも多い(高校生までは松脂は使用しない)。利用後の清掃にも時間がかかる。

ボクシング

- ボクシングリングの設営には、学生約100人で2時間かけている。2階の倉庫にリングがあるが、機材が大きいためエレベーターが使えず、1階の体育室に設営する際は、運搬が非常に危険。試合前の減量している学生で設営するため、常に注意しながら設営しているが、事故が非常に怖い。
- 県内に一般利用できる常設のボクシングリングがない。熊本県は、全国的にもボクシングをする人が多いが、子供の練習環境はボクシング部のある高校のリングに頼っている状況。常設のボクシングリングが1つほしい。

< 熊本県立総合体育館 > 課題・改善の必要性

< 写真 >

中体育室



小体育室



小体育室内倉庫



トイレ



<熊本県立総合体育館> 代替施設

- 観客席数が3千席以上ある県内唯一の体育館。
- 特に、大会利用の代替施設となっているのは、「十分な競技スペースが確保できること」、「空調設備・観客席があること」、「駐車場が十分確保できること」を満たす下表の体育館等を利用。なお、中心地周辺の施設の方が集客面は有利。

県内の主な体育館


施設名	観客席数
ナースパワーアリーナ(熊本市総合体育館・青年会館)(大体育室)	2,402席
八代トヨオカ地建アリーナ(八代市総合体育館)(大体育室)	1,200席
人吉スポーツパレス(大アリーナ)	1,578席
玉名市総合体育館(メインアリーナ)	1,085席
山鹿市カルチャースポーツセンター総合体育館(第1アリーナ)	1,660席
菊池市総合体育館(メインアリーナ)	988席
上天草市松島総合運動公園松島総合センター「アロマ」(メインアリーナ)	1,070席
宇城市松橋総合体育文化センターウイングまつばせ(メインアリーナ)	1,000席
阿蘇市阿蘇体育館(第一体育館)	1,000席
天草市民センター体育館	1,000席
合志市総合センターヴィーブル合志市総合体育館(メインアリーナ)	1,000席
菊陽町総合体育館(メインアリーナ)	938席
益城町総合体育館(メインアリーナ)	2,500席

今後の整備に最も求めるもの

- 興行(プロ・国際大会等)と社会体育(一般利用)の両立。
⇒興行により人が集まることは良いこと。一方、かつて県立総合体育館で開催していた各競技の県大会決勝や九州大会開催時等においても利用できるよう、最大限配慮してほしい。整備後の利用料金についても、一般利用に配慮した対応をお願いしたい。
- 中体育室への空調設置。
⇒空調のない施設は、特に夏において、大会を開催することが困難な状況にある。騒音対策にもつながるのではないかな。
- 駐車場の環境改善。
⇒公共交通機関でアクセスする上での立地はよいが、一定の駐車場数は必要であり、現在の駐車台数では不足する場合が多い。
- Bリーグが定めるB PREMIERの参入基準を満たす施設整備。

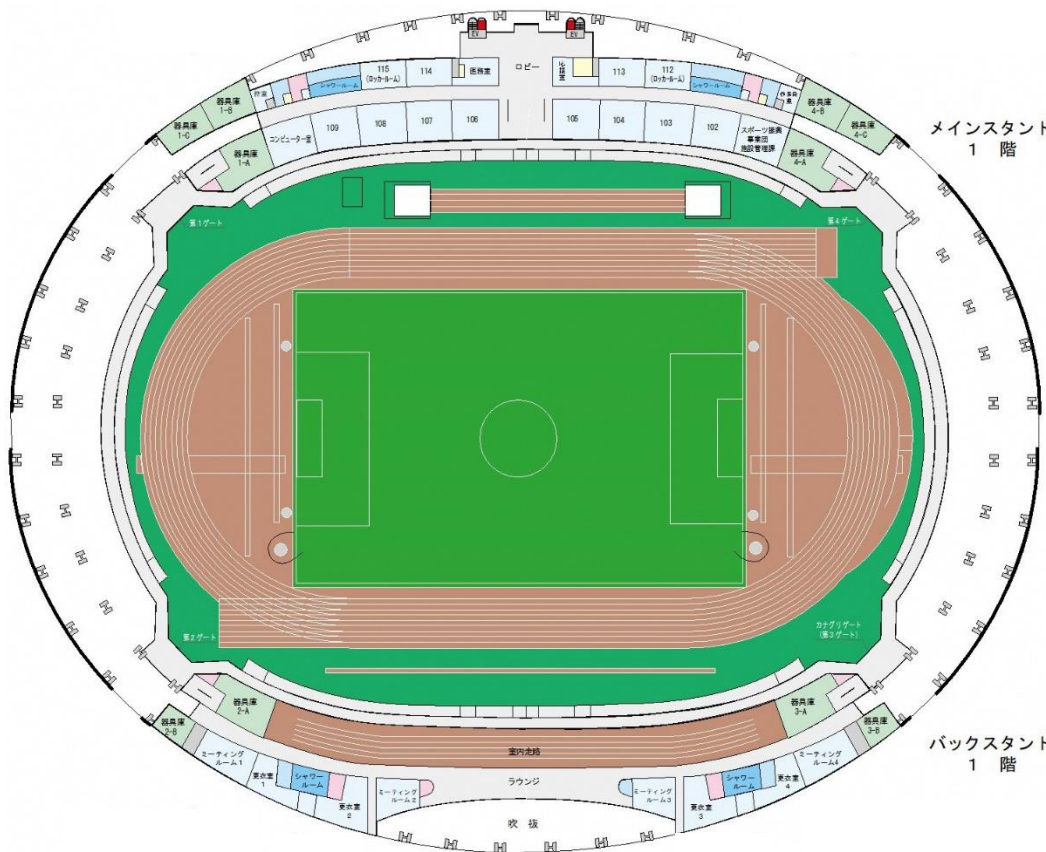
<参考:B.LEAGUE PREMIER審査基準(アリーナ基準・一部抜粋)>

- 5,000席以上の観客席を有する
- 入場可能人数の2%以上の数のトイレ設備を有する(5,000席の場合、100個以上)
- 「スイート」、「ラウンジ」を有する
- 常設設備として、一定の要件を満たす照明設備、音響設備、大型映像設備等を有する



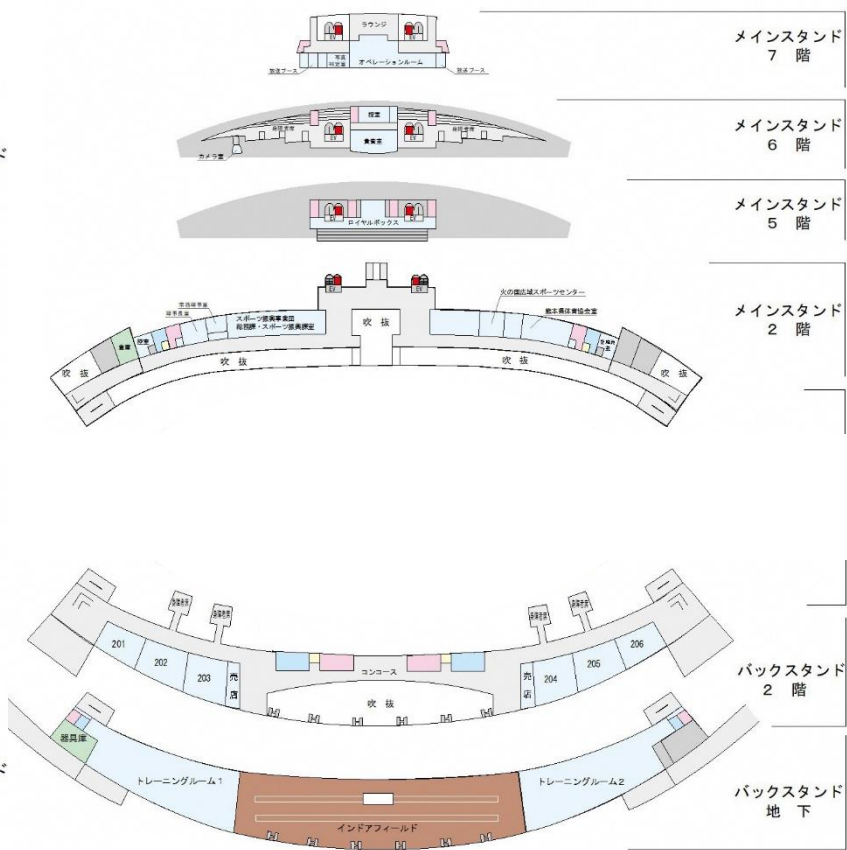
**熊本県民運動公園陸上競技場
(えがお健康スタジアム)**

< 熊本県民運動公園陸上競技場（えがお健康スタジアム） > 施設レイアウト



メインスタンド
1階

バックスタンド
1階



メインスタンド
7階

メインスタンド
6階

メインスタンド
5階

メインスタンド
2階

バックスタンド
2階

バックスタンド
地下

利用実態

全般

平日は、陸上競技場、トレーニング室の個人利用が多い。毎週水曜日は、21時まで利用時間を拡大しており、この時間帯では、社会人や陸上クラブチーム等が利用。
土日祝日は、陸上、サッカー、ラグビー等の大会・イベントで利用されており、事前の年間予約でほとんど予定が埋まる。
天然芝の利用では養生期間が必要であるため、連日の利用はできない。

陸上

県内唯一の日本陸上競技連盟第1種公認陸上競技場。高校総体等の大会では、第1種公認陸上競技場での開催が必要。ロアツソ熊本をはじめ、関係者と長年調整を進めてきたことにより、ここを利用したい大会・イベントは全て開催できている。

サッカー

県内唯一のJリーグの基準を満たすスタジアムであり、ロアツソ熊本のホームスタジアム。
(令和6年は試合で22日、事前準備等で15日利用)
その他に、天皇杯や世代別の各大会等で利用しているが、高校選手権県大会の準決勝・決勝では空きがなく水前寺競技場で開催している。

ラグビー

ジャパンラグビーリーグワン(日本ラグビーの最高峰リーグ)の試合誘致や、2019年ラグビーワールドカップの興奮を次世代に繋ぐラグビーワールドカップレガシーイベントを年1回開催。
天然芝が非常によく手入れされており、利用者からの評判が高い。

課題・改善の必要性

<アクセス関連>

- 「最寄りのJR光の森駅から距離があること」、「路線バスの数が限られること」、「近くに熊本ICがあり、車でのアクセスがしやすいこと」等から、車で来場する利用者が非常に多く、イベント時等は周辺の渋滞の原因になっている。駐車場が不足し、運動公園内の他の施設用駐車場も埋まり、トラブルが発生している。タクシーもあまりない。
- 九州の真ん中に位置する熊本の立地は、大きな大会開催地として魅力的といった声がある一方、アクセス面での対応(駅からの臨時バス等)にコストがかかりすぎ、誘致できずに他県で開催されている。リピートもしてもらえない。
- 行政からの支援がなければ大会誘致等ができない。一方で、行政に頼るだけではいけないため、スポンサー企業の協力のもと、独自のアクセス改善対応にも力を入れている。

課題・改善の必要性

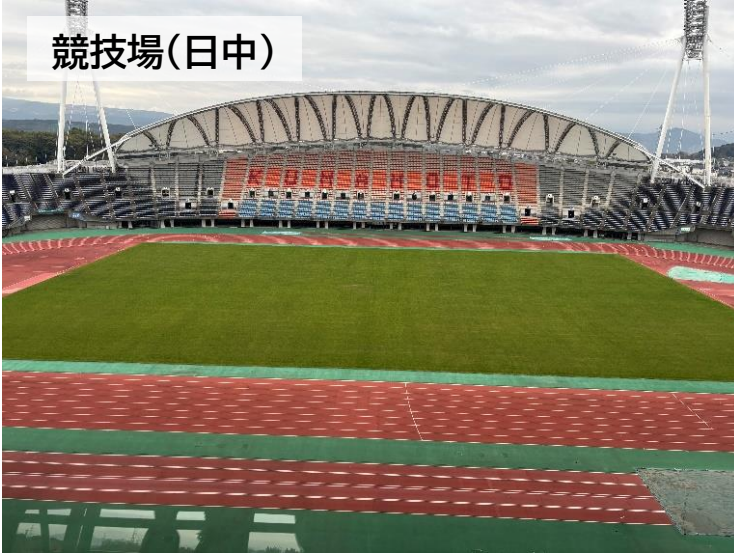
＜設備関連＞

- コンコースや競技場内の照明が少ない。夏場も熱中症対策から、夕刻以降も利用する場合があるが、照明が少なく危険。チケットの確認等の運営面でも支障が生じている。利用者が独自で照明器具を搬入するなどして対応している。
- コンコースに音響がなく、イベント・大会時のアナウンスが届かない。コンコースが日陰になっているため、大会時は多くの選手の待機場所となっているが、アナウンスが届かないことでトラブルが発生することがある。
- 陸上競技用トラックの張替え、備品の更新時期を迎えている。現在、更新に向けて検討がされているが、WA(世界陸連)の認証を取得したい。これにより、県内の優秀な選手の県外流出防止等につながるのではないかと。

< 熊本県民運動公園陸上競技場（えがお健康スタジアム） > 課題・改善の必要性

< 写真 >

競技場(日中)



競技場(夜)



コンコース(日中)



コンコース(夜)



代替施設

- 陸上においては、第1種公認陸上競技場の利用が必須ではない大会・イベントは、県内の様々な地域の陸上競技場を積極的に利用。
- サッカーにおいては、観客席が整備されている水前寺陸上競技場、県営八代運動公園陸上競技場、大津町運動公園球技場を代替施設として主に利用。その他にも、天然芝の県内の競技場を利用。大会では、できる限り天然芝で開催するようにしている。
- ラグビーにおいては、県民運動公園内のラグビー場やスポーツ広場を利用。また、高校生までは水前寺陸上競技場を利用。最近では、山鹿市カルチャースポーツセンターの多目的グラウンドでもラグビーができるようになったため、中学生の大会で利用。

今後の整備に最も求めるもの

- アクセス改善。
⇒県による駐車場の増設が予定されていることに感謝。専用スタジアムの整備等が今後検討される際には、アクセス面を最大限考慮してほしい。
- 照明や音響の設備整備。
⇒安全なイベント・大会運営には必要な設備と思われるため、対応をお願いしたい。
- WA(世界陸連)公認の取得。
⇒WA公認の競技場となることで、県内の陸上競技の更なる発展につながるのではないか。